



(故) 森下元康先生 十三回忌追善

『森下元康 メモリアル・オーケストラ 2022』

— 夢・憧れ・祈り、そして新たな地平へ —

《開催要項》

1. 趣旨

(故) 森下元康先生は2010年(平成22年)5月23日に逝去され、早いもので2022年(令和4年)には十三回忌を迎えます。2016年(平成28年)の七回忌には、『森下元康 メモリアル・オーケストラ』を編成しての献奏を中心とした《追善の集い》も開催され、今なおその人柄を懐かしむ声は絶えることがありません。

森下先生はこの国のアマチュアオーケストラ活動史に、新たな地平を拓きました。それはアマチュアオーケストラを、趣味や自己顕示の場としての「余暇を楽しむ同好の集まり」を超克した、人格の陶冶^{とうや}、人間性の完成への秩序を求めた「社会的中間共同体」へと導いたことでした。明確な目的と理念を掲げた「活動」としての基軸を唱え続け、明文化した多くの活動論を書き記しましたが、それは決して従来の概念や価値観との優劣や正否を論じるものではなく、新たな活動形態への一試論でした。

そうして書き遺された森下イズムのエッセンスを『森下元康のアマチュアオーケストラ活動論』と題し、ウェブ・サイトに連載する試みを2020年から始めましたが、森下先生と直接の知己を得ていない方からも多くの反響が寄せられ、“森下ファミリー”の緩やかな広がりが感じられました。

そして今回の集いの趣旨は、この『森下元康のアマチュアオーケストラ活動論』の延長線上に位置しています。すでに森下先生の不在が十年以上の時を刻む中で、これらは現在も変わらず正鵠^{せいこく}を得るものなのか、もはや時代錯誤の所産であるのか、あるいは現代流にアレンジをする必要があるのか、改めてその真贋^{しんがん}を問い直す時期が訪れているように感じられます。

「提言したい。果たして、新しい時代にふさわしいアマチュアオーケストラのアイデンティティ(自己同一性)はあるのか。不勉強で能力不足、そして日々の生活^{おひ}の渾^{まじ}りの中に埋もれがちな我々アマチュアの音楽に、そもそもアイデンティティは存在し得るのだろうか。猛省して、自己解剖すべき時は今ではないかと思う。」

「我々にとってアマチュアであることが、音楽的未熟さへの言い訳であったり免罪符であったりと、自身^{こぼ}を毀つ場合が多いことを無視できない。お世辞や空疎な褒め言葉にくすぐられると、だらしのないくらい舞い上がってしまったりはしないだろうか。そうした甘えがせつかくの活動をどれほど低迷させてきたか。『ほどほどに、趣味程度に、無理をせず、仲よく、楽しく、何事も民主的に』運営してきた結果が現在の状況である。仲間から異端視されても、集団が単なる『仲よしクラブ』に終らないための戦いを挑みたい。そうした内面的な戦いを避けない活動集団こそ、アマチュアからシチズン(市民)へと昇華していく人たちなのであろう。才能の貧しき者も、ミューズの神の裳裾に触れようと祈りにも似た努力を重ねることが、この活動の正しき装いであるからだ。」

「日本のアマチュアオーケストラの数は既に乱立状態としか言いようのない現在、さらに数だけ増えたところで文化水準が上がったなどどうして言えようか。確かにアマチュアオーケストラ活動の最盛期に突入したことは認めるとしても、それは“広がった”のであって、“深まった”こととは程遠い状況なのではあるまいか。」

森下イズムの置目はここに集約されています。

今、私たちの前にはどんな地平が広がっているのでしょうか。森下先生が40年前に記したこの提言に、私たちは確かな弁証を求められています。

2010年(平成22年)1月、森下先生は生前最後のスピーチで、「日本のアマチュアオーケストラの演奏技術は非常に高くなってきましたが、私たちは次にどこへ行けばいいのでしょうか?」と、静かに語りかけました。

「私たちはいよいよ非常に自省的な、内面的な事に取り組む時期が来たと思います。単に演奏するだけではなく、それが自分の身体や精神の中でどのように作用しているのかを常に確かめていく。自分たちで自省をして伸びようという向上心を持つ、“魂”を持つ存在でありたいものです。」

ここには森下先生が最晩年に描いた“新たな地平”の眺望が抽象的に語られています。しかしその結実を果たすことなく道半ばで他界され、遺された私たちに大きな課題が託されました。

森下先生が心から敬愛されていた音楽評論家の梅津時比古先生は、音楽家の本質についてこう記されています。

「おそらく表現とは、魂の飢えを補おうとするものに違いない。本当の音楽家とは、プロ・アマを問わず、どれほど音楽をする時間に恵まれていようと、この世に生きることによって生じる魂の飢えを、自らの内にもっている人なのであろう。」

梅津先生と森下先生には、「魂の飢え」という通奏が共鳴しています。かつてこの国にオーケストラを創り、そして活動の根底を支えたこの「魂の飢え」という文化活動の源泉が、皮肉なことにいま最も枯渇しているのかもしれない。言い換えれば、記号化・情報化・道具化された文化活動では決して精神の渇きを癒すことはできないということになります。魂の深淵が求める「精神の故郷」を模索し、その中で自己を探究し続ける「アマチュアオーケストラ活動」であることが、森下先生の最後の祈りだったのではないのでしょうか。

「衣食足りている時代に、自分が掛け値なしに納得でき、利害得失を無視できる何かによって自己を解放しなければ、一体何のための“生”なのだろう。自己が精神的な増殖をしようとする衝動を、何かに^{まき}紛らせて暮らしているのではないか。」

七回忌の折には追善・献奏という趣旨で結成された『森下元康 メモリアル・オーケストラ』でしたが、今回はより具現的に〈森下元康〉という共通項をテキストとして、森下先生の精神と音楽との交響を目指し、“新たな地平”への歩みを進められることを趣旨に掲げ、この集いを開催するものであります。コロナ禍により一変した音楽活動の状況下において、かつてこの道を切り拓いた森下元康先生の名のもとに様々な人が参集し、活動の源泉、そして生きることの機軸を互いに再確認する機会として、そして次の世代、さらに次の世代へと伝え続ける橋渡しの場となることを、切に願っています。

さあ、再び“森下ファミリー”の集いを始めましょう。

「ほんの小さな、ほんのささやかな、ほんとに未熟な音楽と人にも幸あれかし……」—— 森下元康

(故) 森下元康先生 十三回忌追善『森下元康 メモリアル・オーケストラ 2022』発起人

下谷 剛嗣 (豊橋交響楽団 音楽監督、JAO 理事長、NPO-WFAO 理事長)

足木 準治 (もと豊橋交響楽団 代表、もと JAO 理事長)

TYOC 歴代講師有志

森下 喜久子

2. 主催、協力

主催：十三回忌追善『森下元康 メモリアル・オーケストラ 2022』実行委員会

協力：豊橋交響楽団、公益社団法人 日本アマチュアオーケストラ連盟 (JAO)、
トヨタ青少年オーケストラキャンプ (TYOC) 同窓会、
認定NPO法人 世界アマチュアオーケストラ連盟 (NPO-WFAO)

3. 開催概要

■『森下元康 メモリアル・オーケストラ 2022』(有志による随時編成オーケストラ、予定定員 120 名)

開催日：2022 年 5 月 3 日 (火・祝)～5 日 (木・祝) (5 日の 14 時から一般公開の演奏会を予定しています)

会場：ライフポートとよはし

愛知県豊橋市神野ふ頭町 3-22 電話 (0532) 33-2111 <http://www.bunzai.or.jp/lifeport/>

参加費：一般 ¥10,000 学生 ¥5,000

(※5月4日・5日の昼食弁当代、軽食代を含みます。学生の方は受付で学生証をご提示ください。)

◇音楽監督：藤原 義章 (もと新日本フィルハーモニー交響楽団首席ヴァイオリン奏者、もと豊橋交響楽団・TYOC 講師)

◇指揮者：現田 茂夫 (神奈川フィルハーモニー管弦楽団 名誉指揮者)

◇曲目 (予定)：ベートーヴェン：交響曲第 3 番 変ホ長調『英雄』(全楽章)

シベリウス：交響詩『フィンランディア』

エリック・コロソフ：『Passacaglia』 In Memoriam Motoyasu Morishita (委嘱作品)

弦楽アンサンブル・管楽アンサンブル (曲目未定)

■追善懇親会 (※追善懇親会は、新型コロナウイルスの感染状況により、中止になる場合があります。)

開催日：2022 年 5 月 5 日 (木・祝) 18:00～20:00

会場：ホテル アークリッシュ豊橋

愛知県豊橋市駅前大通一丁目 55 番地 電話 (0532) 51-1111 <http://www.arcriche.jp>

会費：¥6,000

4. 参加資格

- ・(故) 森下元康先生の活動・理念に共感される方、この会の趣旨にご賛同いただける方。
- ・プロ・アマ、経歴、年齢、所属などは一切問いません。
- ・事前に『森下元康のアマオケ活動論』をぜひご一読ください。

[ホームページアドレス] <http://npowfao.or.jp/blog/theory-archive/>



5. 概日程 (予定)

■ 5月3日 (火・祝)

12:30 受付開始
13:30 開会式、諸連絡
14:00 合奏練習
16:30 休憩・軽食
17:30 合奏練習
19:00 練習終了、移動

■ 5月4日 (水・祝)

9:00 合奏練習
12:00 昼食・休憩
13:00 合奏練習
16:30 休憩・軽食
17:30 合奏練習
19:00 練習終了、移動

■ 5月5日 (木・祝)

9:00 ゲネプロ
12:30 昼食・休憩
14:00 『演奏会』
16:00 終演、移動
17:30 『追善懇親会』
20:00 終会、解散

※3日、4日の練習後には自由参加の懇親会を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況により実施の可否を決定します。詳細は後日ご案内します。

6. 参加お申し込み方法

ご参加を希望される方は、公式ホームページ内の〈参加申し込みフォーム〉よりお申し込みください。 [公式ホームページアドレス] <http://mmmorche.xsrv.jp>

※申し込み締切：2021年11月30日(火)



7. お問い合わせ先

事務局までメールにてお問い合わせください。 E-mail : info@mmmorche.xsrv.jp

8. 備考、ご連絡事項

- ・参加お申し込み多数の場合は人数調整をさせていただく場合がありますので、ご了承ください。
参加の可否については、2022年1月初旬までにお知らせいたします。
 - ・参加お申し込みをいただいた方への詳細連絡は、随時メールにてご連絡いたします。
また併せて、公式ホームページ内の〈最新情報・更新情報〉も随時ご参照ください。
 - ・全日程参加を基本といたしますが、もし途中参加となる場合はその旨お申し込み時にご記入ください。
 - ・会場の『ライフポートとよはし』へは、豊橋駅西口『西駅前』バス停より路線バスが運行しています。
豊鉄バス 神野ふ頭線 (https://www.toyotetsu.jp/ufile/library/769_file.pdf)
バスの増便等も予定していますので、会場へのアクセスにつきましては後日改めてご連絡いたします。
 - ・宿泊につきましては各自でご手配願います。会場へのアクセス等から豊橋駅周辺が便利です。
 - ・期間中の楽器への事故については、主催者の過失と認められない事故について主催者は責任を負いかねますので、ご了承ください。
 - ・当日の写真等記録映像が Web 等で公開されることを、あらかじめご了承ください。
 - ・マスクを各自でご用意頂き、常時着用してください。その他感染対策にご協力をお願いします。
- ※新型コロナウイルスの感染が拡大した場合の実施可否については、3月末までに決定してお知らせします。

9. 運営組織

(故) 森下元康先生 十三回忌追善『森下元康 メモリアル・オーケストラ 2022』実行委員会

実行委員長：白井 正彦（豊橋交響楽団 団長、JAO 理事）

事務局長：羽田野 良裕（TYOC 歴代運営委員長会、NPO-WFAO 理事）

実行委員：小野田 真稔、伊藤 知克子、金子 智子、市川 恵、白井 明未、小山 純平、白井 伸一、森田 純一、

小山 理恵、水谷 哲、北村 宏樹、鈴木 肇、鈴木 良輔、西澤 慶典、水谷 詠未奈、白井 俊亘、夏目 扇歩

スタッフ：中野 悦子、田畑 千明、松原 宣子、大場 紀章、松口 直樹

相談役：伊奈 彦定、松本 茂、寺部 信行



森下元康メモリアル・オーケストラ 2016 『(故)森下元康先生 七回忌追善献奏会』(2016年5月)